

【静岡県立掛川工業高等学校】

令和6年度 第2回 学校運営協議会（報告）

日時：令和7年11月1日（土）

午前10時00分～11時40分

会場：掛川工業高校 小会議室

1 開会

- ・校長挨拶

テーマ「学校の魅力化」御意見をいただきたい。

2 文化祭見学

- ・各工業科展示見学
- ・各クラス展示見学

3 学校からの連絡・報告事項

- ・学校行事について
- ・進路実績報告について
- ・工業教育の充実について
- ・部活動実績報告について
- ・動画の視聴（プロジェクトショーマッピング）

4 協議・意見等

○生徒の進路傾向と資料説明（令和2～6年度）

就職割合が減少、進学割合が増加傾向。学年生籍数の変動を踏まえ、割合で傾向把握していく。

学科別（令和6年度）：情報技術科は相対的に進学が多く、就職は少なめ。

進路指導は入学時からの継続的取り組みが基本。

結論：今後、進学希望が就職希望を上回る可能性がある。地域産業の要望に応えることができる方針・資源配分の検討が必要。

○就職動向・求人倍率

求人倍率：令和2年度5.25 → 令和6年度8.43（生徒一人当たり求人社数増）。

求人倍率は地域により微減も、倍率は上昇。人材不足が顕在化。

結論：求人は好況だが就職希望者の減少見込み。ミスマッチ対策が課題。

○企業が求める人物像

高評価：明るさ・元気、礼儀正しさ・真面目さ、コミュニケーション力、意欲・チャレンジ精神。

相対的に低評価：成績の良さ、情報・コンピュータ知識（ハード・ソフト）。

結論：基礎学力の確保に加え、非認知スキルの育成が重要。

○大学側からの所見（工業高校出身者の強み・課題）

強み：ものづくりの器用さ、実習・演習での主体性と遂行力。

課題：数学・物理など理論面の基礎が弱く、大学での単位取得に影響。

提言：進学志望者は入学前から数学・物理の基礎を強化していく。実践力に理論理解を組み合わせる総合的の育成が必要。

○企業側の視点（リクルートと地元定着）

高校生採用は規制（一人一社制）・人口減で難度高。進学→地元就職のサイクル構築が有効。

工業高校から理工系大学進学→地元企業定着の教育・連携に協力意向。

結論：学校・大学・企業連携による地元回帰モデルの形成が重要。

○保護者の視点

専門高校の価値（就職・推薦進学の選択肢の広さ）の広報不足を課題認識。

専門高校の定員維持・地域教育資源の保護の重要性を強調。

高卒者の自己限定（「高卒だから」）の是正が必要。

結論：広報強化とキャリア意識醸成が必要。

○行政経験者の視点（採用・育成）

面接で重視：明るさ、礼儀、協調性、対人関係構築力。ペーパーテスト偏重は否定的。

採用後のオンボーディング・訓練で育成する発想が重要。

高卒採用は人物重視で高い適正率。

結論：人物面育成を重視し、基礎学力は最低限確保。

5 閉会・所連絡

（1）議事録について

後日、ホームページに掲載する。

（2）今後の予定

第3回 令和8年1月15日（木）～26日（月）

第4回 令和8年2月6日（金）午前10時00分から11時30分まで

※1か月前を目途に案内を送付する。